

資料4-1

下水道技術開発会議の今年度の取組方針

令和二年度下水道技術開発会議の検討課題

- ◆ 活動の柱①「技術ニーズの把握と発信」
 - ・事業主体の技術ニーズ・技術的課題に関する調査(スライドP4)
 - ・各種会議(本省、地方)における技術的課題、技術情報の活用 等(スライドP4)
- ◆ 活動の柱②「技術シーズの把握と発信」
 - ・B-DASH等の技術提案の募集(スライドP5)
- ◆ 活動の柱③「ニーズとシーズの架け橋」
 - ・技術ニーズ、シーズの情報共有のあり方の検討として、課題チェックシートの作成(スライドP6)
 - ・意見交換の場の提供に関する提案、連携(スライドP6, 資料4-2)
- ◆ 活動の柱④「国などの技術情報の共有」
 - ・B-DASH技術の情報発信(スライドP7)
- ◆ 活動の柱⑤「地方の技術開発・技術導入の支援」
 - ・技術開発・導入の促進のための技術開発内容の検討(スライドP8, 資料7)
- ◆ 活動の柱⑥「技術開発の戦略・方針の提示」
 - ・ロードマップの改定検討(スライドP8)
 - ・ロードマップ重点課題の検討(スライドP8)
 - ・ロードマップ重点課題のうち取り組みが進捗していない部分について(スライドP8)
 - 必要な技術開発を加速させるための方策を検討(スライドP8)

令和二年度下水道技術開発会議の検討課題

令和元年度第2回会議での委員からの主なご意見と検討結果

- ✓ 地方公共団体のヒアリングについて、技術的課題や新技術導入上の課題をどうとらえるかでまとめ方も変わってくる。もう少し踏み込んで具体的な課題を捉える必要があるのではないかと。
 - ➡ より踏み込んだ具体的な課題をとらえるために、地方公共団体ヒアリングは「事業運営費不足」「人員不足」「老朽化施設の増大」の観点でヒアリングし、課題について深掘りできるようにしたい。 ➔ [資料4-1 スライドP4](#)
- ✓ 課題チェックシートの使い方と課題の誘導に関するご意見について、自治体の現状を認識してもらうことが必要ではないか、また問診票のように自己申告的に課題と書いていることを書いてもらうようにすれば良いのではないかと。
 - ➡ 使い方や課題の誘導の仕方を含め、委員の意見を伺い試行する。 ➔ [資料4-2](#)
- ✓ 技術開発に投入できる資本や人材が厳しい時代においてどういう仕組みに変えなければならないかということが最も求められていることであると思っている。
 - ➡ まずは行政的にニーズの高い課題のうち、必ずしも進捗がはかばかしくない課題について必要な技術開発を加速させるための方策を検討したい。 ➔ [資料3](#)

今年度の取組方針 #1

◆ 活動の柱①「技術ニーズの把握と発信」

◆ 事業主体の技術ニーズ・技術的課題に関する調査

◆ 事業主体への技術ニーズ等に関する調査

- ✓ 規模の小さい都市における技術ニーズ(例えば、広域化・共同化、未普及解消)、新技術導入上の課題等を把握することを目的に、規模の小さい都市や都道府県を対象にヒアリング調査を実施(3団体程度, 2回訪問)
- ✓ 「事業運営費不足」「人員不足」「老朽化施設の増大」の観点から技術的課題等を調査

ヒアリング項目(案)	
Q1.下水道事業の概要について	Q4.新技術の導入状況について
Q2.直面している技術的課題と緊急性について	Q5.新技術導入上の課題について
Q3.事業を継続する上での技術的なニーズについて	Q6.国、都道府県、下水道関連団体に期待する支援について 等

- ✓ 必要に応じて、ヒアリング対象団体以外の都道府県へアンケート調査

◆ 各種会議における提案議題の情報収集

- ✓ 下水道主管課長会議、地方下水道協会総会、下水道技術開発連絡会議、下水道研究会議等の提案議題を対象に情報収集を実施
- ✓ 必要に応じて、提案都市へのヒアリング調査により内容確認

今年度の取組方針 #2

◆活動の柱②「技術シーズの把握と発信」

◆ B-DASH等の技術提案の募集②-1 下水道革新的技術の実証テーマ等の募集(参考資料5参照)

✓ 技術の熟度に応じて以下の3段階の公募分類で技術テーマを募集

公募①: B-DASH実規模実証テーマ

⇒直ちに実規模で実証できる段階にある技術

公募②: B-DASH FS調査テーマ

⇒実規模実証の前段階として、導入効果などを含めた普及可能性の検討や技術性能の確認を行う段階にある技術

公募③: 中長期的な技術開発テーマ

⇒下水道技術ビジョンのロードマップに掲げられた技術開発項目のうち、概ね5~6年以内に B-DASH FS 調査や他の研究開発事業により実用化研究の段階に到達することが見込まれる要素技術等が含まれるもの

※ロードマップへの追加希望についても提出可能

✓ 公募①及び公募②において特に提案を求める技術項目を提示

1. 維持管理コストの縮減につながる技術
2. 経営改善につながる技術
3. スtockマネジメントにつながる技術
4. 浸水対策、地震対策につながる技術(防災・減災に資する技術)
5. 広域化・共同化につながる技術

今年度の取組方針 #3

◆ 活動の柱③「ニーズとシーズの架け橋」

◆ 技術ニーズ、シーズの情報共有のあり方の検討として、課題チェックシートの作成 (詳細は資料4-2)

◆ 目的

- ◆ 現在直面している技術的課題・ニーズを各事業主体が認識すること
- ◆ 課題を認識した上で、現在あるサポート内容を把握し、解決のための一歩を踏み出すこと
- ◆ 既存のサポート内容では解決困難な場合、もしくは解決策が無い場合は、その課題・ニーズを明確化し、情報発信する → 産官学で解決策検討へ

◆ 意見交換の場の提供に関する提案、連携

- ◆ 下水道キャラバンにおけるB-DASH技術に関する情報提供

今年度の取組方針 #4

◆活動の柱④「国などの技術情報の共有」

◆ B-DASH技術の情報発信

- ◆ B-DASH技術の普及展開状況調査 (資料3)
- ◆ B-DASHガイドラインのフォローアップ
- ◆ B-DASH技術情報資料の作成・更新

B-DASH技術導入ガイドラインのポイント (適用施設規模、技術分野、適用範囲、導入効果及び導入時の留意点、導入事例等)をまとめた技術情報資料の更新

公表URL: <http://www.nilim.go.jp/lab/ebg/b-dash.html>

処理場規模、対象分野、導入効果について該当するものを分かりやすく表示

このスクリーンショットは、B-DASH技術に関するウェブサイトの一部を示しています。上部には、処理場規模（大規模、中規模、小規模）と対象分野（水処理、下水道処理、雨水処理、汚泥処理、資源処理、その他）のマトリクス表があります。中央には、「超効率汚濁分離技術を用いたエネルギーマネジメントシステム」に関する詳細な説明があり、その特徴や導入事例が紹介されています。下部には、技術の活用範囲や留意点に関する情報が記載されています。

検討の初期段階で役立つ、技術の適用範囲や留意点を簡単に確認できる！

導入団体からのコメント、主な導入事例は、技術導入ガイドラインには無い貴重な情報

このスクリーンショットは、B-DASH技術に関するウェブサイトの「導入事例」および「導入団体からのコメント」のセクションを示しています。導入事例の表には、施設名、所在地、導入年度、導入内容などが記載されています。コメント欄には、導入団体の代表者が、導入の経緯や効果について貴重な意見を述べています。

技術開発企業の連絡先があるため、最新情報の確認や技術相談が円滑に

今年度の取組方針 #5

◆活動の柱⑤「地方の技術開発・技術導入の支援」

- ◆ 小都市等の下水道事業をサポートする技術の開発・普及方策の検討
 - ◆ 事業主体への技術ニーズ等に関する調査 [再掲]
 - ◆ 技術開発・導入の促進のための技術開発内容の検討 (エネルギー分科会) (資料7)

◆活動の柱⑥「技術開発の戦略・方針の提示」

- ◆ ロードマップのフォローアップ
 - ◆ ロードマップの改定検討
 - ✓ 技術ニーズ・シーズ、社会情勢の変化等を踏まえ、ロードマップを機動的に見直す(資料5参照)
- ◆ ロードマップ重点課題など、重点化して実施すべき技術開発テーマの提示
 - ◆ ロードマップ重点課題の検討
 - ◆ 重点化して実施すべき技術開発テーマをロードマップ重点課題として選定(資料6参照)
- ◆ ロードマップ重点課題のうち取り組みが進捗していない部分について必要な技術開発を加速させるための方策を検討(資料3)